

# 奥州街道跡 発掘調査現地説明会

近世日本列島の幹線道路

北上市立埋蔵文化財センター

## 【奥州街道跡 調査要項】

所在地 北上市二子町馬場野  
 調査期間 平成 30 年 6 月 7 日～7 月下旬  
 調査目的 北上工業団地造成  
 調査面積 約 600 m<sup>2</sup>



南部藩大名行列図 (岩手県立図書館蔵)

**奥州街道** 厳密な区間としては、現在の東京都中央区日本橋から福島県白河市(白河宿)までを指すが、一般には白河以北の青森県外ヶ浜町三厩(みんまや)までも含め、奥州街道(正式には奥州道中)と呼ばれる。徳川家康の命により、江戸日本橋を起点とする五街道(東海道・中山道・奥州道中・日光道中・甲州道中)の一つとして整備が始まった。街道の宿場町には本陣(大名の宿)が設けられ、北上市内では黒沢尻に本陣が作られた。黒沢尻本町・新町と鬼柳には伝馬(公用の馬)を置く宿駅(旅人や輸送のための宿)が設けられた。奥州街道は、東北地方と江戸を結ぶ幹線道路として重要な役割を果たし、のちに現在の国道4号線となった。

**街道経路** 岩手県教育委員会が発行した『岩手県「歴史の道」調査報告 奥州道中』(岩教委 1979)では、北上市内において二子および成田一里塚を結ぶ区間(一里:約 3.9km、実際の二子成田塚間は一里未満)として、図1の経路が示されている。ただし、1947 年米軍撮影による航空写真や、地籍図、発掘調査成果などを照合すると、点線で示した今回の調査地点を含む経路が奥州街道と考えられる。今回の調査地点は、往時を知る住人によれば戦前は松並木もあり往来もあったが、戦後になり次第に廃道となっていたという。

**街道痕跡** 街道には松並木が整備されたが、北上市内では虫害や伐採、太平洋戦争末期の抜根などにより、現存する区間はない。今回の調査区間の両脇には窪みが列をなしていることから(図2)、ほとんどが抜根されとみられる。調査区 12～18 付近には街道両脇の土手が痕跡をとどめている(図2)。二子・成田には街道を挟み両脇に築かれた一里塚が現存しており(図1)、1965 年に県指定文化財となっている。岩手県内では、花巻市において並木の名残の松が 1997 年に市指定文化財に、一戸町において総延長約 9km の良好な残存区間が 2010 年に国指定史跡となっている。

## 奥州街道 略年表

慶長5年	1600	関ヶ原の戦いに徳川家康率いる東軍が勝利
慶長6年	1601	家康の命により、五街道(東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道)の整備始まる
慶長8年	1603	江戸幕府樹立
慶長9年	1604	街道沿いに一里塚が築かれる
寛永12年	1635	参勤交代制が確立、奥州街道の整備が進む※1
承応3年	1654	路線改修および松並木の整備が行われる (『盛岡藩雜書』承応三年九月)
万治2年	1659	二子村内の松並木が整備される (『二子物語』)
延宝元年	1673	盛岡仙北町-鬼柳間の松並木が整備される (『盛岡藩雜書』延宝元年十月二五日)
享保9年	1724	松並木の根付幅が中央路線の外側2間と決められる※2 (『郷村古実見聞記』)
明治6年	1873	奥州道中から陸羽街道に改称される
明治9年	1876	九年橋が完成、明治天皇東北巡行
明治12年	1879	二子村-成田村間が常盤台-村崎野に切り換えられ、調査地点を含む区間が裏街道となる
明治20年	1887	陸羽街道が国道6号線に指定される
大正9年	1920	国道6号線から国道4号線へと改称される

※1 盛岡城-日本橋間は139里(約546km)、11～13泊の行程であった

※2 並木松の土手代分4尺、除地の分2間、路線分3間として8間2尺(約15m)が道路外側最大幅とされる



松並木の抜根跡とみられる窪み(8区付近、北から)



街道両脇の側溝(4区、西から)  
溝間から測る路面幅は5~6m



うねる様に削り出された土手と溝(15区、西から)



図2 現況測量図

0 100m

※本図における2018年度調査区的位置・形状は、測量によるものではなく模式図である

## 調査結果概要

1. 現況・・・街道両脇には抜根の痕跡が並び、調査区 10～19 には土手・側溝が現存する
2. 検出遺構・・・街道の側溝、街道脇の土手、縄文時代の落し穴 1 基
3. 街道の側溝・・・溝幅 0.4～1.5m (東西溝とも 3 回以上の掘り直し痕跡)、溝の間隔(街道の幅)5～6m前後
4. 街道脇の土手・・・幅 1.5m前後、高さ 0.5m前後(路面からの高さ)、調査区南側斜面部の切通区間に、黄褐色の地盤を削り出した上に盛土し造られる
5. 調査所見・・・最も深い部分では現在の路面まで 0.5mの盛土と整地が行われている。また、多くの調査区で複数回の整地を確認した。整地にあたって砂を敷きつめており、さらに土を張る場合もあったことがわかった。新しい時期の整地には円礫が敷かれており、現在の地表面にも一部露出している。
6. まとめ・・・今回の調査により、二子・成田一里塚間の経路が明らかになった。大量の土砂が運ばれており、街道の維持管理にかなりの労力が投入されたことが伺える。



北側調査前状況(7区付近から撮影、写真奥が北)



南側調査前状況(17区付近から撮影、写真奥が北)



『増補行程記(※)』に描かれた成田村と周辺 (18世紀中頃 盛岡市中央公民館蔵)



※江戸日本橋から盛岡城までの参勤交代道中の風景を描いた絵図



南部藩大名行列絵図 (19世紀 岩手県立図書館蔵 ※部分拡大)

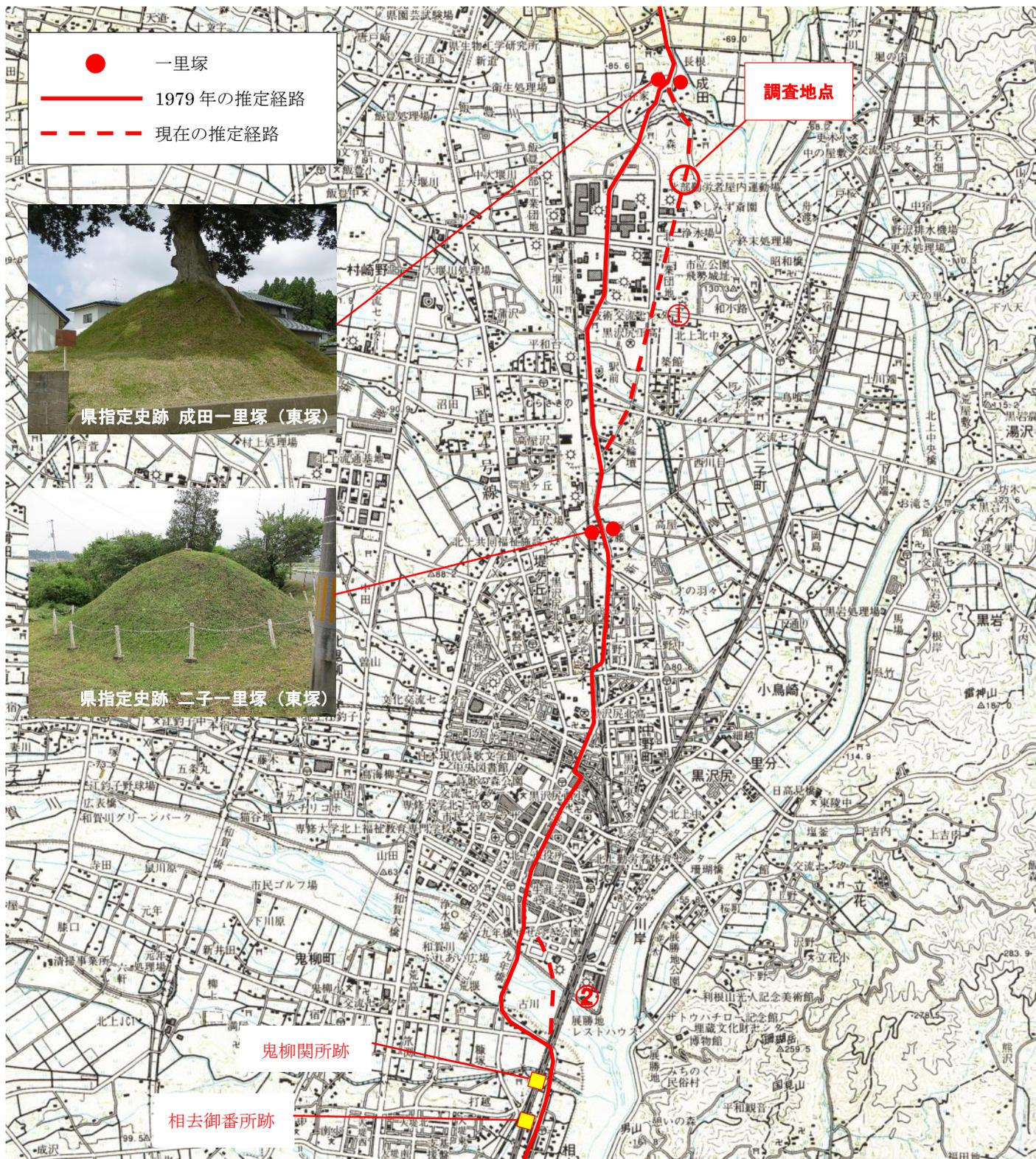


図1 北上市内における奥州街道の経路と一里塚 (1:50,000)

※①今回の調査をもとに推定した経路、②九年橋架橋以前の推定経路

北上市立埋蔵文化財センター 平成30年度行事予定

埋蔵文化財写真展：平成31年11月中旬～平成31年1月中旬 ツインモールプラザ りぼん橋・生涯学習センター

埋蔵文化財展：「掘りだされたくらし」平成28・29年度の発掘調査成果を展示（葛西壇遺跡、北藤根遺跡ほか）

平成31年1月17日（木）～21日（月）さくらの百貨店北上店3F 催事場

発掘調査報告会・講演会：平成30年度市内遺跡発掘調査報告、講演会（演題・講師未定）

平成31年1月19日（土）13:00～17:00（予定）現代詩歌文学館講堂